

「南相馬チャンネルの北陸での映像提供実験と今後の全国展開に関するシンポジウム」

～南相馬チャンネルから東日本復興チャンネルへの全国展開に向けて～

福島県南相馬市、(株)TBS テレビ及び(株)ヨーズマーの主催による「南相馬チャンネルの北陸での映像提供実験と今後の全国展開に関するシンポジウム」が、平成 23 年 11 月 16 日(水)、千葉県幕張メッセの「inter BEE2011」の会場で開催されました。

南相馬市では、市内にある実験放送局「南相馬チャンネル」の映像をインターネットによりデジタルテレビやパソコンに提供する実験を北陸地域に避難している市民を対象に本年9月から実施しており、本シンポジウムは映像提供実験の成果を踏まえ、南相馬チャンネルを全国に展開するための課題の解決方策を探るとともに、広く支援と協力を呼び掛けることを目的に開催されたものです。

シンポジウムでは、桜井勝延 南相馬市長の主催者挨拶、森田高 総務大臣政務官の来賓挨拶の後、野口高志(株)ヨーズマー代表取締役が北陸での映像提供実験の概要等を報告し、同報告を踏まえ、「南相馬チャンネルから東日本復興チャンネルへの全国展開に向けて」をテーマとするパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、三友仁志 早稲田大学教授がコーディネーターとなり、パネラーである村上輝康(株)野村総合研究所シニア・フェロー、田中幹夫 南砺市長、佐藤祐一 南相馬市情報政策課長、本間康文(株)TBS テレビ技術局担当局長、野口高志(株)ヨーズマー代表取締役、齊藤一雅 北陸総合通信局長(「南相馬チャンネル」北陸地域映像提供実験支援協議会会長)の各氏が、それぞれの立場から、「南相馬チャンネルの意義」、「映像提供実験から得られた知見」、「南相馬チャンネルの東日本復興チャンネルへの全国展開に向けての課題とその解決方策」について意見を述べ合いました。

南相馬チャンネルの意義について、村上氏から、「この取組は奇跡の出会いプロジェクト、多数の関係者が絡み、絆が生まれる中で、ホワイトスペースを活用した放送とインターネット(通信)の融合の仕組みを構築しており、世界的にも注目されるプロジェクトではないか」との発言がありました。

また、「全国展開に向けた課題とその解決方策」では、佐藤氏から、「現在は関係企業のご好意により無償で運営されているが、ランニングコスト等今後の費用負担が課題になる」との問題提起があり、これを受けて、齊藤局長から、「番組制作コストに加えて、避難者をネットに繋げるためのランニングコストをどう工面するかが最大の課題。今後は、この取組を社会全体で支える仕組みが必要であり、今、支援協議会の中で、南相馬チャンネルを東日本復興チャンネルへ全国展開するために、社会全体から善意や CSR やボランティアの資源を誘導するための「東日本復興支援コンソーシアム」のような仕組みが作れないか、議論を進めている」との発言がありました。

今回のシンポジウムを踏まえ、現在、当局では、南相馬チャンネルの東日本復興チャンネルへの全国展開に向けて、様々な方々からのご意見、ご提案やご支援、ご協力のお申し出を受け付けるための窓口を設けております。沢山の皆様からのご連絡をお待ちしております。

【受付窓口】

「南相馬チャンネル」北陸地域映像提供実験支援協議会

事務局 (株)ヨーズマー 野口、毛利

TEL:076-224-7080 e-mail:info_atmark_yoozma.jp

事務局補助 北陸総合通信局電気通信事業課 綿谷、中野

TEL:076-233-4420 e-mail:hokuriku-jigyo_seisaku_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際は「@」に変更してください。

南相馬チャンネルの全国展開等に関するシンポジウム(2011年11月16日)

パネルディスカッション



実験概要説明



シンポジウム会場風景



南相馬市長 桜井 勝延



総務大臣政務官 森田 高



南砺市長 田中 幹夫



総務省北陸総合通信局長 齊藤 一雅



南相馬市 情報政策課長 佐藤 祐一



(株)ヨーズマー 代表取締役 野口 高志



早稲田大学 教授 三友 仁志



(株)野村総合研究所 シニアフェロー 村上 輝康



(株)TBSテレビ 技術局担当局長 本間 康文